

ますだ通信



愛知県議会議員 ますだ裕二 中区選出

～平成30年～
夏号

防災対策特集



自らが率先して地域防災に取り組むことができるように、「1講座60分以上の講座を12講座以上受講」及び「研修レポート等の提出」・「防災士資格取得試験合格」・「救急救命講習受講」を経て、この度防災士の資格を取得しました。

防災士は、地震や土砂災害のメカニズムなど災害に対する知識を学ぶ事により、災害が起こった際に行政がどのような対応に努めるのか。また、災害に対する備えを地域としてどのように行っていくのかを学び実践していくことが重要だと考えます。



「地域防災力強化」政策提言のために、全国各地を視察しました

春日部市都市外郭放水路を視察し、ゲリラ豪雨対策について学ばせていただきました。

春日部市は、商業化など都市インフラが進んだことにより、洪水被害を防ぐための河川整備や下水道整備が追いつかず、幾度となく洪水被害を受けてきました。私たちの中区も急激な都市化が進み、ゲリラ豪雨対策が急務である地域でもあります。



神戸市の“人と未来防災センター”を視察し、災害の恐怖を後世へと伝えるための取り組みを学ばせていただきました。

阪神淡路大震災の経験と教訓、学術的な知見や蓄積された研究成果に基づき、政府・地方自治体・企業等の災害対策や災害政策の立案、推進に資する実践的な防災研究が行われていました。私たちも、次の世代へ伝えていくことの重要性を学ばせていただきました。

結論

まずは、家屋倒壊や家具転倒による圧迫死から自分の身を守る（自助）。

自らの命を守ってから、はじめて地域での救済活動や避難所の運営に努める（公助・共助）。

そこで愛知県として、このような取り組み（一例）に力を入れています

「自助」の取り組み

■住宅・建築物の耐震化の促進

- 住宅の耐震化の促進
民間住宅の耐震診断補助：130,000戸
民間住宅の耐震改修補助：17,000戸
 - 建築物の耐震化の促進
民間建築物の耐震診断補助：1,100棟
民間建築物の耐震改修補助：60棟
- 《具体目標》住宅の耐震化率：
85%（2011年）→95%（2020年）

■家具固定の促進

- 家具等の転倒防止対策の促進
家具固定推進検討会の設置
- 《具体目標》家具の固定率：56%（2013年）→65%

「共助」の取り組み

■防災体制の強化

- 次世代型災害情報システムの構築
- 災害応急体制の見直し
- 防災部門機能の充実・強化

■防災医療活動の充実

- 災害医療調整機能の強化
医療救護活動計画の策定
災害医療調整本部、地域災害医療対策会議に係る訓練の実施
- 災害拠点病院等の機能の強化
平成25年4月から適用の新たな要件を満たす災害拠点病院数：36病院（平成29年度）

県政の相談・地域のお困りごと相談は

愛知県議会議員 ますだ裕二事務所

〒460-0012 名古屋市中区千代田4丁目17番8号 千代田ビル2階
TEL:052-324-3947 FAX:052-332-5684



《公式ホームページ》

名古屋市中区 災害時の特性と対策

南海トラフ巨大地震が発生した場合、最初に**震度6弱**の揺れが想定されます。まずは身を守りましょう。このときに怪我をしないよう、日頃から家具の転倒防止などの耐震対策に努めましょう。**揺れがおさまった後、自宅が被害を受けたかまたは受けおそれる場合は適切な避難を行います。**また、**液状化現象**が起きる可能性が高い箇所がいくつかあります。建物が傾いたり、路上に泥水が溢れ出し、通ることができなくなります。さらに家屋や事業所の倒壊や延焼などを踏まえ、適切な避難先と、そこまで安全にたどり着くための経路をあらかじめ考えておきましょう。

地震発生！ 災害時の対応

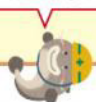
揺れた

- 身の安全の確保
- 頭を守り揺れがおさまるまで待つ
- 安全に消せる場合は火を消す
- 家具や家電の転倒や落下、ガラスの破片などに注意



丈夫な釘がない時は、クッション、かばん、クマなど身近にある物で頭を守りましょう

安全にすばやく避難行動をとるためにも、**自宅**の耐震化や家具の転倒防止対策は日頃からしっかりと進めておきましょう



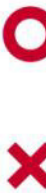
揺れがおさまった

- 火がでたら初期消火
- 怪我をしないように靴やスリッパをはく
- 家族の安否・家屋の被害状況の確認
- 出入り口の確保
- ラジオやスマートフォンなどからの正しい情報の入手
- 非常持ち出し品の準備

地域には、町内会・自治会単位に結成された自主防災組織があり、災害時に初期消火、救出救護等の活動を行います。地域の被害を小さくするため、自主防災組織の活動にご協力をお願いします。



災害の危険解消 自宅での滞在が可能か



在宅避難 避難先へ

◆自宅に住めるなら、なるべく自宅で避難生活を！

避難所は、不特定多数の方が避難生活を送るため、環境の変化とともに大きな負担がかかることが想定されます。火災や家屋倒壊などの危険がない場合は自宅で避難生活を続ける“在宅避難”を考えましょう。その際は、下記のことを心がけましょう。

- 避難所や備えのある方などが取り残されていないか確認しよう！
- 周囲に自宅避難を知らせよう！
- 周囲でおかけし、食料や物資を分け合おう！

◆避難先へ安全に避難するための6つのポイント

- 1 ガス・水道の元栓を締め、ブレーカーを切る！
- 2 近所への声かけ！
- 3 高齢者や障がいのある方などの避難誘導を！
- 4 原則徒歩で！(歩道禁止・道路幅や障がいのある方などの避難を妨げない)
- 5 木造住宅密集地、つげ地や川の近くは避けて！
- 6 二次災害に気を付けながら消火・人命救助の手伝いを！

一人では逃げるのが難しい方への対応

過去の災害では、周囲からの「声かけ」と「避難の手伝い」が、下記のような高齢者や障がいのある方などの避難行動を早めました。日頃から一人で逃げるのが難しい方を把握し、地域みんなで、いち早く避難行動が取れるよう協力しましょう。

情報の入手や判断が難しい方

(例えばこんな方)
目が見えない方、耳の聞こえない方、認知症の方、知的障がいのある方、日本語が苦手な外国人、ひとり暮らしの高齢者や高齢者のみの世帯など



移動が難しい方

(例えばこんな方)
普段、杖・押し車・車椅子などを使っている人、寝たきりの人、けが人、病人、妊婦さんなど



避難の時の豆知識

避難する時に持つていくもの

- | | | | |
|--|--|---|--|
| 防災用品
<input type="checkbox"/> 携帯ラジオ
<input type="checkbox"/> ヘルメット・防災ずきん
<input type="checkbox"/> 軍手
<input type="checkbox"/> マスク | 照明等
<input type="checkbox"/> 懐中電灯(電池含む)
<input type="checkbox"/> ワッチ・ライター | 食器類
<input type="checkbox"/> はし・スプーン
<input type="checkbox"/> 紙皿・紙コップ | 衣料品
<input type="checkbox"/> 衣類(備蓄え)
<input type="checkbox"/> タオル(大・小2種類) |
| 貴重品
<input type="checkbox"/> 現金(小銭も必要)
<input type="checkbox"/> 預金(貯)金通帳の写し
<input type="checkbox"/> 健康保険証・免許証の写し
<input type="checkbox"/> カード類
<input type="checkbox"/> 認印・印鑑など | 医薬品
<input type="checkbox"/> 三角せん
<input type="checkbox"/> 包帯・ガーゼ
<input type="checkbox"/> ばんそうこう
<input type="checkbox"/> 消毒薬
<input type="checkbox"/> ウェットティッシュ
<input type="checkbox"/> カード類
<input type="checkbox"/> お薬手帳の写し | 便利用品
<input type="checkbox"/> 筆記用具
<input type="checkbox"/> 新聞紙
<input type="checkbox"/> 携帯用トイレ
<input type="checkbox"/> コミ袋
<input type="checkbox"/> キッチン用ラップ
<input type="checkbox"/> 使い捨てカイロ
<input type="checkbox"/> 雨具
<input type="checkbox"/> 手動携帯電話充電器 | <input type="checkbox"/> コミ袋をカッパに
<input type="checkbox"/> 新聞を林にまいて防寒 |

日頃から水や食料を準備しておきましょう。めがね・入れ歯・持病の薬も忘れず！

住民からのメッセージ

一人で避難が困難な方は周囲の人に伝えておこう

まずは自分の命。次に助け合いの命を大切に

